

障がいのある人の 8050 問題・親亡き後問題について

(1) 8050 問題・親亡き後問題について

様々な要因から引きこもり状態となっている 50 代の子をその親が支援している世帯が抱える、将来的に世帯としての生活が困難になるという潜在的な問題を指し、文字どおりに「親が亡くなってしまおう」場合だけではなく、「親が要介護となり支援者としての活動ができなくなる」場合も該当する。

(2) 8050 問題・親亡き後問題に係るこれまでの静岡市における経過（資料 1 - 2）

平成 30 年度以降、課題となる事項の整理等を進め、現静岡市障がい者共生のまちづくり計画においては、8050 問題・親亡き後支援を含めた「安全・安心、将来に向けた支援体制の確保」を計画のポイントとして掲げている。

令和 3 年度第 3 回静岡市障害者施策推進協議会においてハンドブックの原案（資料 1 - 3）を示すとともに、「静岡市障がい者共生のまちづくり計画策定等懇話会」（資料 1 - 4）等の意見を踏まえてハンドブックの制作等を進めていく方針について承認いただいた。

懇話会においてハンドブック原案を提示し、令和 4 年 9 月、令和 5 年 1 月の 2 回にわたり意見を聴取し、ハンドブック制作に向けた検討を行ってきた。

(3) ハンドブック制作に係る懇話会での意見等

（ハンドブックの使い方に関する御意見①）

- 8050 問題は以前から多くのケースを扱ったが、当事者は何が問題であるかわからないことが多い。
- 当事者の不安は漠然としているものかと思うので、何が今後困りそうなのかを想像するよう導いてくれる内容はありがたい。
- ハンドブックは課題を明確にすることを目的として使用してはどうか。
- 具体的な支援内容は市の作成する「障がい者（児）福祉のしおり」や育成会の作成する「しずおかサポートファイル」等、既存の冊子を確認いただく形でも良いのではないかと。

（ハンドブックの使い方に関する御意見②）

- 本人の親亡き後の生活イメージと、親が考えている親亡き後の生活イメージを対比させるのもいいのではないかと。例えば表紙を本人と家族がそれぞれ使用し、認識のギャップを確認し合うなど。
- 自分の生活はどうか（生活の概要）から、自分はどうしていきたいか（将来像）が見えるものにしてほしい。

（ハンドブックの記載内容に関する御意見）

- 「はじめに」を設けて、このハンドブックをつくることになったきっかけや対象者、目的、趣旨などを書いてはどうか。その際には 8050 問題がどういった問題であるかも記載する。
- 自分のことを客観的にとらえるためのページであれば、障がいを分かるようにするのもよいのではないかと。
- 相談先に当事者団体を加えることで相談しやすくなるのではないかと。

(4) ハンドブックの目的・対象世帯等

(目的)

ハンドブック 1冊ですべての悩み事・課題への対応を網羅するつくりとした場合、内容が膨大となることから、懇話会でいただいた意見を踏まえ、「今後も地域での生活を送ることができる」ように、予め、どのような問題が生じうるのか整理しておくためのきっかけづくりとすることを目的としたい。その際には、原案の「ハンドブック」という名称ではなく、形態に適切な「リーフレット」として制作する。

整理した課題の相談先として、障害福祉企画課が作成する「障がい者（児）福祉のしおり」の該当ページ数を案内するほか、本人の情報整理に活用ができる「しずおかサポートファイル」（静岡県手をつなぐ育成会が静岡県障害福祉課より委託を受けて作成）を紹介する。

(対象世帯)

8050問題の対象となる「80代以上の親」が「50代以上の子」の支援をしている世帯を基本とするが、将来的に同じ状況となることが見込まれる「70代の親が40代の子を支援している世帯」から「生まれたばかりのお子さんがある世帯」まで、幅広く活用していただくことを想定している。

(使用方法)

当事者本人が課題の整理を行うことは困難である可能性も鑑み、基本的には、支援者（親）が記入をすることを想定しているが、本人に伝えることも重要であることから、意思疎通を図っていただきたい旨も表紙に記載をしている。

また、懇話会でいただいた「現在の生活から将来像を見ることのできるものとしてはどうか」という意見を踏まえ、課題整理のための見開きページにおいては、現在の状況も記載できるようにしている。

(配布方法)

市役所窓口での配架や市ホームページでの掲載を予定。